

登録販売者とヘルスケア市場に関わる関係制度

衆議院 厚生労働委員会 審議内容の整理

2026年4月17日（金）

日本医薬品登録販売者会
専務理事 横田 敏

本日のお話し

衆議院厚生労働委員会から(4月10日、15日)

1. OTC薬の遠隔管理の件

2. OTC類似薬の保険給付見直しの件

健康保険法等の一部を改正する法律案 概要

1．より公平な負担の実現、効率的な給付の確保

① OTC類似薬の薬剤給付の見直し

② 後期高齢者医療の窓口負担等の見直し

2．出産等の次世代支援、現役世代からの予防・健康づくり

① 出産に伴う妊婦の経済的負担を軽減

② 妊婦健診に伴う妊婦の経済的負担を軽減

③ 子どもに係る均等割保険料(税)の軽減措置

④ 現役世代の予防・健康づくり強化(協会けんぽ)

3．必要な医療の提供の確保

① 高額療養費の支給見直し

② 業務効率化・勤務環境改善に取り組む医療機関支援

4．その他(協会けんぽの平均保険料引下げ措置など)

施行日:1 ①公布後1年以内に施行

本日のお話し

衆議院厚生労働委員会審議から

1. OTC薬の遠隔管理の件

2. OTC類似薬の保険給付見直しの件

4月10日 衆議院厚生労働委員会

OTC薬の遠隔管理で、管理店舗は受渡店舗をどう管理していくかの見解を聞きたい。



改革連合・無所属
濱地 雅一

中道 濱地雅一議員

- ・登録受渡店舗は**OTC医薬品の受渡の実施と、医薬品の管理などの業務を受ける（受託する）**ことができる店舗。
- ・一方、販売は含まれない。
- ・そのために委託元と委託先との**業務契約の締結、業務手順書の作成、当該手順書に基づいた、適正な業務が実施されているかの監査（責任）は、委託元に求めることを想定している。**



宮本医薬局長

4月10日 衆議院厚生労働委員会

薬機法57条の2の受渡店舗での「陳列等」は、当該陳列を見て、その場で来店者が購買動機が起こって購入した場合、それは「販売」そのものを指すのではないか。



中道 濱地雅一議員

- ・ 受渡店舗では**ご指摘の条項により**、医薬品が来店者等に見える形での**陳列自体は禁止していない**。
- ・ ただし、委託元が委託先に陳列を行わせる場合、当該陳列が委託元の指示範囲を超えて、あたかも**委託先が販売しているかの誤解を、購入者等に与える医薬品陳列は禁止されている**。



宮本医薬局長

4月10日 衆議院厚生労働委員会

登録受渡店舗の機能は販売業務を含まないことを前提に、もう一度なぜ陳列が許されるのか見解をお聞きしたい。



中道 濱地雅一議員

- ・ 来店者が陳列されている医薬品を見て医薬品を購入したいと思っても、すぐに購入できない。
- ・ 委託元の薬局、店舗販売業の専門家とコミュニケーションした上で、初めて当該医薬品を受け取れる仕組みである。
- ・ つまり、陳列されている医薬品を見て医薬品を購入したいと**思うこと自体は、委託の範囲を超えているとは思えない。**
（次のスライドに続く）



宮本医薬局長

4月10日 衆議院厚生労働委員会



宮本医薬局長

- ・ 薬機法第57条の2第5項はそのための条文である。
- ・ つまり「委託元である薬局、店舗販売業者は、登録受渡店舗に医薬品を陳列させる場合、厚生労働省令で定める事項を指示しなければならない」とあり、それ以外の陳列を委託先の受渡店舗が行うことは禁止している。
- ・ あたかも登録受渡店舗が販売しているかの陳列は不可である。
- ・ そういう意味では、厚生労働省令に定める陳列については、いろいろ注文を出していきたいと思っている。

4月10日 衆議院厚生労働委員会



中道 濱地雅一議員

登録受渡店舗では当該医薬品の広告はできないと思われる。広告は販売行為を行うための行為そのものだと思うが、その辺の見解はどうか、お聞きしたい。

- **医薬品に関する広告は許可業態に関らず、誇大広告等を除いて、一般用医薬品は禁止されていない。**
- **ただし、委託先が医薬品の受渡サービスそのものの広告を行う場合、それは販売しているかの誤認を招く恐れがあるために、必要な措置が必要だと思う。具体的な内容については今後、検討していきたいと思う。**



宮本医薬局長

4月15日 衆議院厚生労働委員会

遠隔販売の監査とは、誰が、誰に対して、どのような項目を、どのように監査するのか、実地の監査が必要だと思うが、どうか。

- ・ 監査は、委託元が委託先に手順書を作成させ、当該手順書に基づき、医薬品の受渡、医薬品管理等が実施されているかを想定している。
- ・ 今回の遠隔管理はデジタル技術の活用が大きな主旨になっている。
- ・ そのため実地に管理は想定していない。
- ・ ただし、具体的な監査内容が的確に確認できるかは、薬局等の実地管理状況を踏まえて検討していきたい。



改革連合・無所属
濱地雅一

中道 濱地雅一議員



宮本医薬局長

4月15日 衆議院厚生労働委員会



中道 濱地雅一議員

OTC薬遠隔管理の件、委託元が適切に管理できる店舗数には限界があると思うが、どうか。

- ・委託元が委託先である登録受渡店舗を何店舗管理できるか、その上限数を具体的に規定することは想定していない。
- ・委託元が全ての委託先の受渡店舗を適切に管理できることが前提である。
- ・ただし、委託元が適切に管理できる店舗数は、委託元が整備するシステムや体制、委託先の体制などにより大きく影響を受ける。

（次のスライドに続く）



宮本医薬局長

4月15日 衆議院厚生労働委員会



宮本医薬局長

- ・これから示す省令では、具体的な店舗数は規定しない考えを示している。
- ・ただし、業務の管理を適正に実施できる範囲の数とすることは非常に重要だと考えている。これを担保できる仕組みとすることが適切だといえる。

本日のお話し

衆議院厚生労働委員会審議から

1. OTC薬の遠隔管理の件

2. OTC類似薬の保険給付見直しの件

4月15日 衆議院厚生労働委員会



自民 勝目 康 議員



間保険局長

OTC類似薬について、一部保険外療養として4分の1を別途、患者負担としているが、その患者の範囲をどう考えるか。慢性疾患は考慮されるとなっているが、対象になるものと、ならないものの線引きをお聞きしたい。

- ・例えば、抗がん剤治療の副作用に伴う手足症候群に対して保湿剤を使用する場合、がん治療に伴う副作用のため別途負担の対象にはならない。
- ・アトピー性皮膚炎患者で、医師の診断や治療の下、年間を通じて治療が必要な場合も対象外となる。

（次のスライドに続く）

4月15日 衆議院厚生労働委員会



間保険局長

- ・その上で、具体的な配慮の範囲や運用は「法案成立後、有識者の検討会で技術的な観点から議論した後に、医療保険部会や中医協で議論してもらう予定である。
- ・その際、OTC類似薬がありながら、追加負担が生じないように、新薬などへの「不必要な処方シフト」や「現場の判断に偏り」が生じないような、運用の分かりやすさにも留意する必要があると考える。

4月15日 衆議院厚生労働委員会



中道 濱地雅一議員

OTC類似薬の薬剤給付負担見直しは、長期収載品の選定療養の導入時と違い、これから国民理解が必要だ。そのための患者説明などで相当な現場混乱が予測されるが、そのための窓口対応など、調剤報酬で何らかの措置が必要だと思うが、その見解についてお聞きしたい。



間保険局長

- ・ 2027年3月から予定する同制度の施行に向けて現場負担の軽減に努める。
- ・ 薬局で生じ得る新たな窓口対応などについて、調剤報酬での対応の要否も含めて、しっかり検討したい。

4月15日 衆議院厚生労働委員会

**OTC類似薬の保険給付見直しによる、
薬局側のシステム改修費などの負担増に
対する支援についてお伺いしたい。**



中道 沼崎満子議員

- ・ OTC類似薬保険給付見直しに伴い、現時点で薬局のシステム改修の規模や、費用の支援の必要性についての具体的な検討には至っていない。
- ・ いずれにしても薬局を含めた医療現場で円滑に制度運用を開始できるように丁寧に対応する・



間保険局長